

タデスマレ(蓼堇) *Viola thibaudieri* Franchet et Savatier

長野県の1箇所だけに自生している多年草で、葉がタデに似ていることから名がつけられた。発見者は飯田市出身の田中芳男博士(1838~1916)で、和名は後輩の牧野富太郎博士(1862~1957)により 1909 年に命名された。学名は 1878 年にフランス人チボージェによりつけられた。

花は白色で尖っていて、下唇弁には紫色のすじがあり、側弁は有毛で、距は短く2つの丸みがある。独特なさわやかな香りがある。

国と県の絶滅危惧種に指定されているため、自生地はシカの食害や盗掘から保護するために鉄製の保護柵で囲まれている。各研究機関により、遺伝子分析や栽培試験、増殖試験が行われており、国内2箇所の植物園で展示栽培されている。

